
報告者名	稲澤 努	被調査者生年	1941年(男)
調査者名	稲澤 努	被調査者属性	八重垣神社氏子総代長
補助調査者	なし		

現在の住まい

仮設に住んでいる。

津波について

今までは来なかった。警報などがあっても、せいぜい50センチ海面が高くなる程度だった。だからまさか4、5メートルの津波が来るなんて、考えもしなかった。今回津波で、7割の人は逃げた。でも、水が来てから逃げた人のほうが多い。「今まで来たことあつか？」と言って、逃げない年寄りもいた。区で46、7人がなくなった。今までが平和すぎたんだ…。津波とは違うが、30年くらい前、まだ堤防がなかったところに低気圧が来て、高潮で被害がでたことがある。水が海沿いの低いところから流れ込んで、県道まで来た。笠野の畑はみんな低いところなので、被害にあった。その時はニュースなどで「異常に発達した低気圧」と言われたけど、それだけじゃ事前には具体的にどうなるかはわからなかった。

生業の復興

去年の今頃、家、機械、全てを流されて、40～50代のものが「ダメだ、ダメだ」といって呆然としていた。そして、それまで畑をやっていた者が、「(会社に)勤めるか？」などと言っていた。それに対し自分は、「お前ら、勘違いしてんじゃねえか。大卒、高卒でも就職できねえんだ。そんな単純じゃねえ」と言った。前向きにやるしかねえ。

震災前に比べて、自分のイチゴ畑は3分の1くらいになったが、やっている。ただし、自分の場合は小規模なので、イチゴに関する補助はもらえない。

植樹祭に関して

総代会に相談はあった。財団の人から金の心配はするなと言ってもらった。金は笹川会長のバイオリンを売ったのがあるので心配ないと。それで任せることにした。

八重垣神社の宮司さんについて

巫女には何々流というのがあつた。詳しくは知らないけど。彼女は踊りで、日本で3人しか踊り手のいないものを踊れる。浦安の舞という。以前、神社の慰安旅行に行つて、行つた先の人みんな彼女を「先生」と呼ぶ。最初は、神社の世界はそういうものなのかと思つたが、そうではなかつた。我々は宮司をSちゃん、Sちゃんと呼ぶけど、それを聞いた金華山の宮司(80代)が、「それはないだろ、大先生だぞ」と。それでわかつた。今日の植樹祭にも神社庁のトップが来る。それは、ここの神社が大先生のところだということを知つているからだ。

お天王さま祭り

昔は旧暦で行つていたので、8月末だつた。でもそれだと毎年日にちが変わる。同じにしたほうがいと、今か

ら5、6年前に自分が総代になってから7月末の土日に変えた。今の時代に合わせるほうがいい。ずっとやってきたものを変えるのは、「何で？」という話もでたけれど。7月末なら、子供の夏休みにも重なるし、ちょうどいい。

親戚が海沿いを歩いている、警官に津波が来るから危ないと注意された。津波が来るから祭りもあぶないと言われて、海降りができないかもしれないが、いつ津波がくるというのか。行政は町民の声をきいてほしい。